

令和6年度 全国学力・学習状況調査の結果から（我孫子第二小）

1. 全国学力・学習状況調査の結果について

<国語>

- 「情報の扱い方に関する事項」「我が国の言語文化に関する事項」「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」「選択式」「記述式」に関する問題の正答率は、全国平均を大きく上回っている。内容別・問題形式別のほとんどの分野で上回っている。
- ▲漢字を文中で正しく使うなど「言葉の特徴や使い方に関する事項」に関する問題も概ねできているが、文中にある漢字を書き取る問題の正答率は、全国平均より低い。

<算数>

- 「数と計算」「データの活用」の領域に関する問題の正答率は、全国平均を上回っている。「図形」の領域に関する問題の正答率は、全国平均とほぼ同じである。問題形式別では、「記述式」の問題の正答率は、全国平均を上回っている。「選択式」「短答式」の問題の正答率は全国平均は、ほぼ同じである。
- ▲速さの意味について理解しているかどうかをみるなど「変化と関係」の領域に関する問題の正答率は、全国平均をやや下回っている。

<児童質問調査> ○→全国平均を上回った項目 ▲→全国平均を下回った項目

- 普段の生活の中で、幸せな気持ちになることはどれくらいありますか
- 先生は、授業やテストで間違えたところや、理解していないところについて、分かるまで教えてくれていると思いますか
- 国語の授業の内容はよく分かりますか
- 全ての書く問題で最後まで解答を書こうと努力しました。(国語)
- ▲国語や算数の勉強は好きですか ▲自分には、良いところがある。
- ▲自分と違う意見について考えるのは楽しいと思いますか
- ▲学校の授業以外の1日あたりの学習時間

2. 成果と課題に対する今後の取組について

<成果>

- ・国語に関しては、各種学力調査の分析を生かした指導、読書活動の充実、「書く」指導の積み重ね（文章を書く活動を増やしたり、一定の条件のもとで考えながら書く機会を設けたりする）などの成果と考えられる。
- ・算数の「数と計算」「データの活用」に関しては、「小数の除法」「計算に関して成り立つ性質を活用した計算の工夫」「円グラフの割合の読み取り方」「必要なデータの分類整理」などに関する効果的な指導をしたことや「数の計算」の領域の指導法を全職員で研究したことが功を奏したと思われる。
- ・児童質問調査の結果から、これまでの学校や家庭での指導、支援の積み重ねにより、「自己有用感」の高まりが少しずつ見られる。

<課題と今後の取組について>

- ・国語に関しては、漢字の学習時に、熟語の意味の確認や比較などの学習を行う。文意に合う漢字を選択したり書いたりする。
- ・算数に関しては、「変化と関係」の領域の学習時間を増やす。二つの数量の関係に着目し、速さなど単位量当たり

の大きさの意味及び表し方について理解できるようにする。

- ・複数年を見通して、複数の資料を同時に読み取ったり、資料を作成してから文章を作成したりする課題に取り組む。資料等の活用方法がまだ十分に分かっていない児童がいる場合は、繰り返し取り組ませたり、より簡素な資料の活用の仕方から確認したりしていく。
- ・研修内容を見直し、既存の研修の改善や新たな研修を実施し、授業改善につなげる。
- ・引き続き、各種学力調査の分析や改善等を対象学年だけでなく、全学年で行う。出題内容と関連のある学年を中心に、設問ごとに分析等を行い、学校全体で共有する。
- ・児童の学習の様子を中心に、様々な方法で家庭や地域に伝えるようにする。児童への声かけ、頑張りや良さの称賛の機会を増やし、児童の意欲の向上につなげていく。